

27Q-pm058

薬学生に対する実践型倫理教育の有効性の検証

○川村 和美^{1,2}, 松鹿 利香³, 岸本 桂子⁴, 榊原 幹夫¹, 荒井 恵二^{1,3}, 福島 紀子⁴
(¹スギメディカル, ²静大人, ³スギ薬局, ⁴慶應大薬)

【目的】平成 18 年度から薬学教育 6 年制がスタートし、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいて「倫理の重要性を学ぶ」ことが一般目標に掲げられたことから、多くの薬科大学で薬剤師のための倫理教育への取り組みが始まっている。本研究では、薬学生に対して実践型倫理教育を実施し、講義前後における薬学生の意識の変化を分析することにより、その有効性を検証する。

【方法】2008年7月、慶応義塾大学薬学部3 年生に対する「患者から学ぶ」の講座で、薬剤師が直面するディレンマを題材としたオリジナルのケースについてSGDを行い、筆者が開発した5分割表に各々記入したポスター発表を行うというスタイルで倫理教育を実施した。本講義の際に、倫理に関する5つの設問(a)倫理がどういうものか理解している、b)私は薬剤師の倫理観をもっている、c)倫理観は個人の問題であるから個々の判断に任せざるべきで、教育の必要はない、d)職業倫理を発揮するとは、薬剤師倫理規定を遵守することである、e)薬剤師として正しい判断をするには、倫理の学問的背景が必要である)への回答を依頼した。回答は5段階評価によるものとし、講義前後の結果を比較した。

【結果と考察】回答者は 182 名であり、設問により差はあるものの、有効回答率は 90. 7～99.5%であった。設問のうち、講義前後で最も大きな差がみられたのは c)であり、男女による有意差も明らかであった。実践型倫理教育を受講することで、倫理への理解が深まり、教育の必要性を強く感じるようになったことが示唆された。